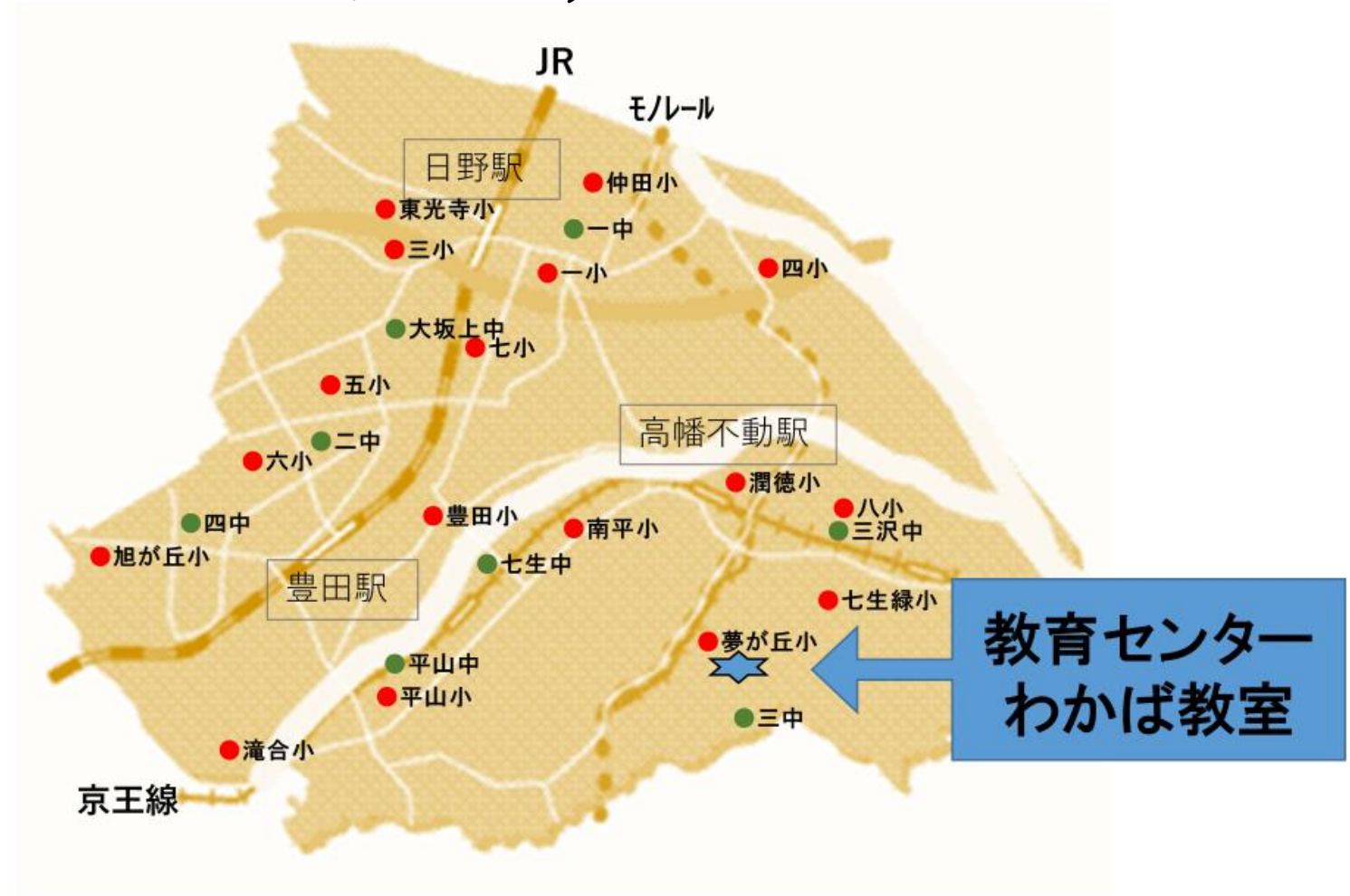


令和7年度 わかば教室の活動

日野市立教育センター
活動報告・調査研究発表会



わかば教室はこんなところにあります



登校しぶりの子供たちの現状

登校しぶりの子供たち

各学校内での登校
支援教室、別室対
応

フリースクール等
の利用

どこにも
繋がっていない子供たち

わかば教室へ通室

発達・教育支援センター
エール他

わかば教室の目的

わかば教室設置要綱より

**長期間登校できない状況にある
日野市に居住する児童・生徒が対象
(国立、都立、私立学校も含む)**

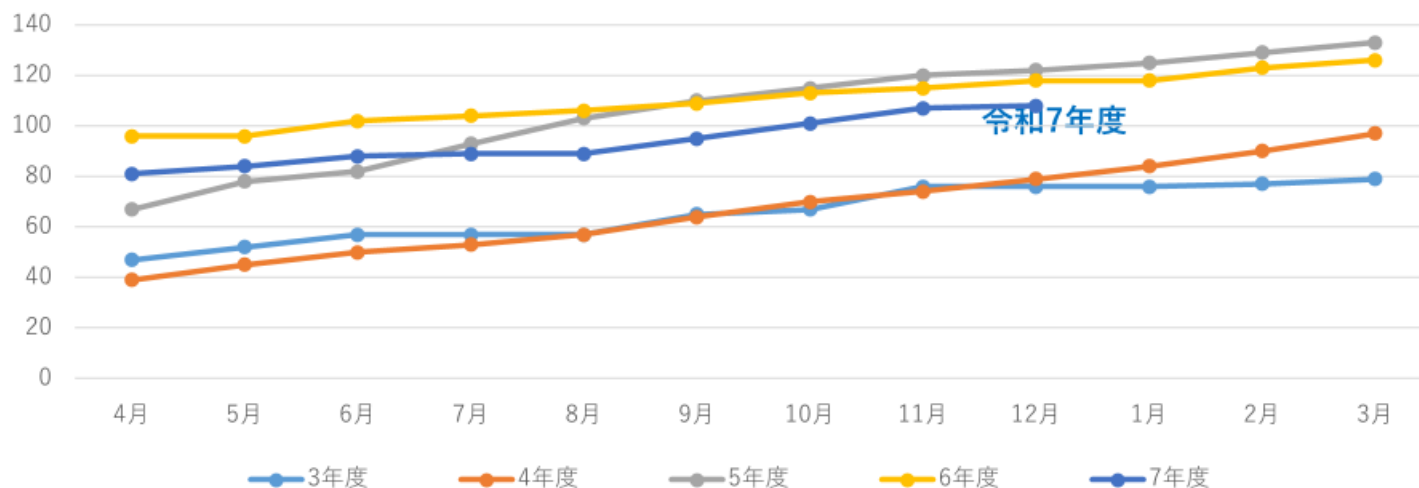
心と身体のエネルギーを高め
健やかな成長を目指す
支援及び指導

安心して過ごせる「学びの場（居場所）」とする
「学習」及び「学校復帰」等に向けた支援をする
将来、「社会的自立」ができる力を育む

■学校への登校■社会的自立

5年間の通室生の毎月の増減状況（12月末集約）

わかば教室通室状況



令和6年度 初回面談・相談件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
件数	2	3	6	8	4	10	6	3	4	3	8	7	64

令和6年度は、相談件数、通室者とも5年度より少なかった

令和7年度 初回面談・相談件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
件数	13	4	7	2	2	8	9	5	2				52

途中復帰扱い者・退室者

＊ 令和6年度途中復帰・退室（転校等含む）扱い者数は・・・

小学生 4名 中学校 6名 計 10名

令和7年度は、12月末現在・・・

小学生 6名 中学生 4名

＊ 昨年度は、学校に復帰できた児童・生徒は6名。復帰できていない児童・生徒もいる。また、退室はしていないが、「学校」と「わかば教室」を使っていた児童生徒が50名ほどいた。

「わかば教室」の現状

令和6年度末 各学年の通室者数

R7.3.31現在

学 年	小 1	小 2	小 3	小 4	小 5	小 6	小学 計	中 1	中 2	中 3	中学 計	合 計
計	2	3	9	11	13	19	57	16	18	35	69	126

毎日、20～25名前後の児童・生徒が通室していました

10名

令和7年度 各学年の通室者数

R7.12.31現在

学 年	小 1	小 2	小 3	小 4	小 5	小 6	小学 計	中 1	中 2	中 3	中学 計	合 計
計	2	5	3	15	13	13	51	16	22	19	59	108

男子52名、女子56名

毎日、22名前後の児童・生徒が通室しています

長期欠席や登校しぶりの原因・背景

長期欠席や登校しぶりの原因・背景は様々あるが、一つの要因だけではなく、複合的なものとなっている場合が多く見られる。

- ① 友達関係
- ② 教員との関係
- ③ 音や視覚などの感覚過敏
- ④ 教室の雰囲気の不適応
- ⑤ 多人数への不適応
- ⑥ 進路に関わる不安
- ⑦ 部活動等学校生活に関わること
- ⑧ 心身の不調・生活習慣への不適応等
- ⑨ 親子関係等、家庭環境
- ⑩ 本人自身に関わること
育ちの支援が必要な場等々

周囲の人にはなかなかわかりづらいケースも多い

「わかば教室」を知る状況

- * 学校からの紹介

〔管理職、担任、コーディネーター、養護教諭、S C〕

- * 日野市発達・教育支援センター（エール）からの紹介

〔就学相談、教育相談、保健師、S S W〕

- * 教育委員会からの紹介

- * 保護者の方が「不登校支援パンフレット」を見て、また、
独自にWebページ等で調べる

わかば教室の活動を通して

- ・ 自己肯定感を上げる
- ・ 教科学習がメインではなく、体験活動などを多く実施
- ・ 多くの行事を実施し、行事には計画から児童生徒に参加させる
- ・ 中学生向けに、学びに向けた楽しい体験を行う
「基礎学習2」を始める（煮干しの解剖など）

わかば教室入室の流れ

- * 電話相談を通してわかば教室への見学を紹介
- * 学校や各機関からの紹介、電話等で見学の申し込み
- * 当日希望の場合もあり、出来るだけ早い日程で対応する
- * 見学・相談(面談)〔保護者・本人〕
- * 体験入室(「わかば教室」の活動に参加)
 - ・ 翌日から体験入室の希望もある
 - ・ ステップを踏んで活動の体験
- * 入室(手続き)
 - ・ 《心と身体のエネルギ-の充実》を目指す
- * 退室〔学校復帰・社会的自立〕

期間は個人による

「わかば教室」での体験通室・入室期間は、個人により異なる

児童生徒の通室状況

* 日々の通室

毎日通室、週2日ないし3日通室、週1日、月数日 など

* 在室状況

一日在室

午前または午後の在室

遅れて通室し、早めに退室

放課後通室し、カウンセラーと話して帰宅

自分自身のエネルギーや体調・生活リズムにより過ごし方に違いがある

* 今年度、学校とわかば教室の両方を利用する児童・生徒の増加

学校の登校支援教室と併用する児童・生徒、学校に給食を食べに行く生徒が増えてきた

児童生徒の通室方法

* 通室の方法

- ・ 一人で通室・退室する
- ・ 保護者の方による送迎(通室・退室)
 - ☆保護者はいったん帰宅し、再度、迎えに来る
 - ☆保護者が別室や車の中で待機している
- ・ 通室時(朝)のみ送ってもらい、帰りは一人

* 通室の手段

- ・ 徒歩
- ・ 公共交通機関(電車・モノレール・バス)+徒歩(児童も)
- ・ 自家用車での送迎

安全面から、自転車通室は禁止している

わかば教室の一日

9:00～ 9:20 通室時間

9:20～ 9:30 朝の会（本日の連絡・読書）

児童・生徒のリズム
で通室する

9:30～11:00 学習タイム1、2

1は基礎学習、2はeラーニング、SST、わかデミー、総合

11:00～12:00 学習タイム3〔わかばタイム〕

12:00～13:00 昼食・昼休み

13:00～13:15 清掃（火・金）

13:15～14:25 学習タイム4、5〔SST、わかデミー、基礎学習2〕

【小学生 13:15～13:45 帰りの会 13:50】

【中学生 14:30～14:25 帰りの会 14:30】

14:50～指導員の記録作成、活動準備、ミーティング等

《水：14:00～16:00 個別のeラーニング実施 ＊申し込み制》

9時20分が通室時間であるが、個々の事情により可能な時間に通室をする

令和7年度 わかば教室 時間割

R.7. 4. 1～

曜 日 タイム	月		火		水		木		金	
	小学生	中学生	小学生	中学生	小学生	中学生	小学生	中学生	小学生	中学生
9:20～9:30	卓 月 の 会									
タイム1 9:30～10:10	基礎学習（国・算・数・英・理・社）									
タイム2 10:20～11:00	わかデミー/総合		eラーニング		SST	SST	eラーニング		総合	
タイム3 11:10～12:00	わかばタイム [ことば]		わかばタイム [スポーツ]		わかばタイム [音楽]		わかばタイム [栽培]		わかばタイム [図工・美術]	
昼食・昼休み ～13:15			掃除 13:00～13:15						掃除 13:00～13:15	
タイム4 13:15～13:45	わかデミー		わかデミー		帰りの会 ～13:00		SST	SST	わかデミー	
タイム5 13:55～14:25	小学生 帰りの会	基礎学習2	小学生 帰りの会	わかデミー			小学生 帰りの会	わかデミー	小学生 帰りの会	わかデミー
		中学生 帰りの会		中学生 帰りの会				中学生 帰りの会		中学生 帰りの会

※ 木曜日のわかばタイム（栽培）の時間は天候等により変更することがあります。

3F わかば教室

図書室

個別
学習室

男
トイレ

女
トイレ

教材室

学習室

会議室

職員室

相談室

小学生
学習室

プレイ
ルーム

講 堂

その他活動場所：
体育館・校庭・畑

指導・支援活動の5つのポイント

1.個に応じた指導

学習に向けた指導と「わかデミー」「eラーニング」の実施

2.豊かな体験活動

様々な行事の実施や「わかばタイム」等の活動

※地域との連携

3.教育相談活動

カウンセラーによる面談(随時、電話、オンライン)、保護者面談も行う

4.通室生の記録作成

指導・支援の共有について毎週、情報共有のためのミーティング実施

5.保護者・学校との連携

保護者会の実施、わかば通信の作成、配布

個に応じた指導

1.「わかデミー」の時間の取り組み

2.個に応じた学習指導

→わかる喜び、学ぶ楽しさ、基礎的事項を個別に指導

3.卒業後の進路を目指した進路学習

4.eラーニング・・・小・中学生とも週2回設定

- ・「基礎学習」
各自のペースで、学習に取り組む
- ・「わかデミー」（主体的な学びの育成）
自分の興味・関心に合わせて、自分のペースで学習する
- ・「eラーニング」
一人一台のタブレットも使い、プログラミングやタイピング練習、イラスト描画に取り組んでいる。

豊かな体験活動

- ・ 一年を通して、計画的に体験活動を設定
- ・ 人とのかかわり合いと感動体験を重視
- ・ 年齢の枠を超えて皆で協力し、成就感を味わわせることを目指している

○ 行事（令和7年度）

- | | |
|---------------|--------------------------|
| ① 多摩動物園遠足（4月） | ② スポーツ大会（5・12月） |
| ③ 高幡図書館訪問（6月） | ④ 収穫祭（調理実習）（7・12月） |
| ⑤ 美術鑑賞教室（9月） | ⑥ 社会科見学（読売プリントメディア）（10月） |
| ⑦ 音楽鑑賞教室（11月） | ⑧ 展示による学習発表会（11月） |
| ⑨ 新年を祝う会（1月） | ⑩ 卒業進級を祝う会（3月） |

○ 「わかばタイム」（毎日、小学生と中学生が合同で実施）

月曜日の「ことば」・・・ 俳句・書写など創作など

火曜日の「スポーツ」・・・ 基礎体カトレーニングや球技、ゲームなど

水曜日の「音楽」・・・ ハンドベルなど楽器演奏や曲の鑑賞、合唱など

木曜日の「栽培」・・・ 野菜や花の栽培、収穫

金曜日の「図工美術」・・・ 藍染、陶芸など

○ 「ソーシャル・スキルアップ・トレーニング」

コミュニケーションスキルや社会的行動力を身に付けるためのトレーニング
ゲームやワークシートを使って活動している



豊かな体験活動 三校一教室の連携教育の推進

日野市立日野第三中学校・日野市立夢が丘小学校・日野市立七生緑小学校とわかば教室による共同の作品展示会を実施（多摩モノレール 程久保駅）



教育相談活動

関係機関との連携

- ① 学校生活上の問題(不登校)に関する相談(学校・保護者)
- ② 「通室状況報告書の作成」 → 毎日記録した内容をまとめて、翌月始めに各校に送付
- ③ 「わかば教室連絡会」 → 各学校との連携(学期1回) (2学期は見学と説明会)
- ④ 「小・中学校訪問」 → 教育相談係が各学校に行き、在籍校と情報交換を行う
- ⑤ 「わかば教室 市教委連絡会」(毎月実施、教育委員会・エール)

カウンセラーによる相談活動

- ・ 毎日、一人のカウンセラーが常駐(水・木は二人体制)
- ・ 通室生の状況を見て個別に対応
- ・ 毎週開く会議で指導者に子供への指導対応についてアドバイス
- ・ 保護者の相談にも対応
- ・ 通室出来ない子供、皆と一緒に活動できない子供には電話やオンラインで相談活動を実施したり放課後の面談も実施

保護者・学校との連携

①保護者会の実施

年間4回、保護者会を実施。個別面談や懇談会、講演会(3月)実施。保護者主催の懇談会も実施。

②わかば通信の配布・配信、諸連絡(Home&Schoolの活用)

③学校との細かな情報共有。担任の先生の訪問も増える。

オンラインによるサポート

①「オンラインわかば」

わかば教室の様子をオンラインで一部公開
通室生のオンライン参加も増えた

②オンラインでの個別面談

オンラインで面談を実施

③長期休業中のオンラインの活用

夏季休業中に毎日、オンラインを開放し自由に参加

わかば教室で過ごす子供たちの実態

友達と話したり、一緒に活動できる子供も多くいる反面・・・

- ・皆が過ごす学習室になかなか入れない、廊下で過ごす
- ・急に不安定になり泣き出す
- ・疲れて話したくない、一人になりたい
- ・カウンセラーと話がしたい
- ・一人でずっと絵を描いたりして過ごす
- ・友達や指導員との会話がほとんどできない
- ・日によって様子が違う

多くなっている対応

- ・ 特別な支援を要する児童・生徒への対応
- ・ 音や視覚などの感覚過敏の児童・生徒の対応
- ・ 集団になじめない児童・生徒への対応
- ・ 対人関係がうまく構築できない児童・生徒への対応
- ・ 周囲に気を使いすぎてしまい精神的につらくなる子供への対応
- ・ 家庭内に課題を抱える子供への対応
- ・ オンラインによる対応

以上の内容を踏まえ、以下の対応が重要

- ・ カウンセラーによる個別対応
- ・ 子供への対応に悩む保護者との個別相談
- ・ 家庭、学校、関係機関との連携

わかば教室での対応から

- ・ 保護者が子供の様子がつかめず困惑している
- ・ 保護者が子供と話す機会が少なくなっている
(スマホ・タブレットによるゲーム、YouTube、SNSなどの影響)
- ・ 保護者と子供だけの閉鎖的な空間になってしまっている
ケースが多く、保護者がどこに相談してよいかわからない

以上のことから、保護者が精神的に不安定になり、それが子供に影響しているケースが多くなっている

指導力向上に向けた取り組みと 日野市の不登校対応

①指導者の指導力向上に向けた取組

通室してくる児童・生徒によって対応を変えなければならないケースも多くなり、その都度共通理解を図り全員で対応

②不登校相談の実施

わかば教室が不登校相談の窓口となり、保護者からの相談が毎月あった。特に、不登校支援パンフレット配布後は多くなった。
相談後は、学校と連携して対応。わかば教室の見学につなげたケースもある。

③小中学校訪問

市内各小中学校を訪問、不登校生徒の情報交換や登校支援教室の様子を見学。状況に応じてわかば教室と連携し、不登校児童・生徒の対応にあたる。

「わかば教室」の報告を 終わります

ご清聴ありがとうございました

